

2020 年度国際新世代ワークショップ

趣旨文

現在続いているコロナ禍の状況は「社会的距離」ということばが象徴するような相互の隔離を、社会のあらゆるレベルで強いています。われわれは出会うことが出来ず、移動することが出来ず、それぞれの場所に閉じこもり、ともにあることを、電子的媒体を通じて確認しあうことができるだけです。こうしたリモートワーク状況は、物理的レベルでの「社会的距離」とは裏腹に、文化や情報の交流においては、水平化を一挙に推し進めているように見えます。すでにグローバル化の下で推し進められてきていた、文化や言語の均質化が、こうしてさらに加速されて行きかねない状況です。このような中で、世界における文化や言語の多様性や多数性を守り発展させていくことで、日本語や日本文化、そしてそれを研究することは、どのような意味を持ち、どのような貢献をなしうるのでしょうか。そしてこの問いはおのずからもう一つの問い、すなわち、そもそも、日本語や日本文化の研究が、日本国内での、地域やジェンダー、セクシュアリティ、世代の違いから生じる多様性や多数性を、いきいきと扱っているのか、という問いを呼び起こします。多様性と多数性を国境内で尊重せずにして、それを、国境を越えて尊重していくことは難しいことのはずです。ワークショップでは、以上の点について、日本研究の第一線に立つヨーロッパの若手日本研究者の皆さんから、自身の研究経験や研究ヴィジョンに基づく報告をしていただきます。そしてそこから出発させて、活発な議論の場を生み出して行きたいと考えています。